

令和4年度

所 報



鳥取市教育委員会
鳥取市総合教育センター

はじめに

平成19年4月に設置された当センターは、令和4年度で16年目を迎えました。本年度は、サポートルーム「すなはま」「レインボー」「かわはら」に加えて、より多様なニーズに応じるためにサポートルーム「懐」を新たに開設し、学校へのアウトリーチにも対応した支援を行いました。

令和4年度においても、新型コロナウイルス感染症の収束が依然として見通せない中、所管事業を様々に工夫して展開しました。とりわけ、「学校力アップ！教師力アップ！」を通して「研修で学校が変わる！」ことをめざした教職員研修については、その目的に応じて「集合」「遠隔（各校・会場校）」「遠隔」の3つの形態で実施しました。また、受講者の学びを各校へ還元するため、管理職への復命や担当分掌での情報共有が効果的に行われ、実践に向けた提案につながりやすいよう「Myアイデアシート」の活用促進を図りました。オンラインによる事後アンケートや振り返りが定着し、効率的に結果集計・分析を行うことができ、研修受講者の感想等を全校にフィードバックできたりした利点もありました。これらの実践はコロナ禍収束後にも生かしたいと考えています。

「GIGAスクール構想」の実現に向けた環境整備の面では、すべての学校の普通教室および特別教室への大型提示装置の配備を完了するとともに、1人1台端末が令和3年4月より運用開始となったことに伴い、よりニーズに応じた支援を行うため「GIGAスクール運営支援センター」を開設しました。また、効果的なICT活用に向けて引き続き指導主事派遣研修を行い、一人ひとりの子どもの主体的・対話的で深い学びの実現をめざしているところです。

児童生徒支援においては、不登校やいじめ等に係り、児童生徒の支援や学校、保護者、関係機関との連携体制の充実に努めました。所内では、教育相談活動やサポートルームの運営、生徒指導事案への対応等を、指導主事やスクールソーシャルワーカー、教育指導員がチームとして協働的に進めました。

サポートルームでは、教科学習や創作活動、ふれあい体験など魅力ある活動を企画し、より充実した支援に努めました。また、本年度は1人1台端末を活用し、学校とつないだ支援やオンライン学習アプリを活用したりしました。今後も学校や保護者との連携を図りながら、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて社会的に自立することをめざし、個別のニーズに応じたより一層の支援に努めてまいります。

末筆ながら、総合教育センターの今年度の運営に対し、格別の御協力と御支援を賜りました関係者の皆様に厚く御礼申し上げますとともに、今後とも、より一層の御指導・御支援をいただきますようよろしくお願いいたします。

令和5年3月

鳥取市総合教育センター
所長 安田 直人

目 次

はじめに

I 鳥取市総合教育センターの概要

1	設置の目的	1
2	沿革	1
3	組織及び業務	1

II 令和4年度の事業概要

【研修企画係】

1	教職員研修のねらい・実績	2
2	教師力サポート研修	4
3	中堅教諭等資質向上研修 企画選択研修の事例	6
4	G I G Aスクール構想事業の環境整備	8
5	若手育成	10

【児童生徒支援係】

6	鳥取市の不登校対策	12
7	鳥取市のいじめ防止対策	13
8	サポートルーム「すなはま」「レインボー」「かわはら」「懐」 の運営	14
9	サポートルーム「すなはま」「レインボー」「かわはら」「懐」 の相談状況	18
10	児童生徒交流体験事業	20

I 鳥取市総合教育センターの概要

1 設置の目的

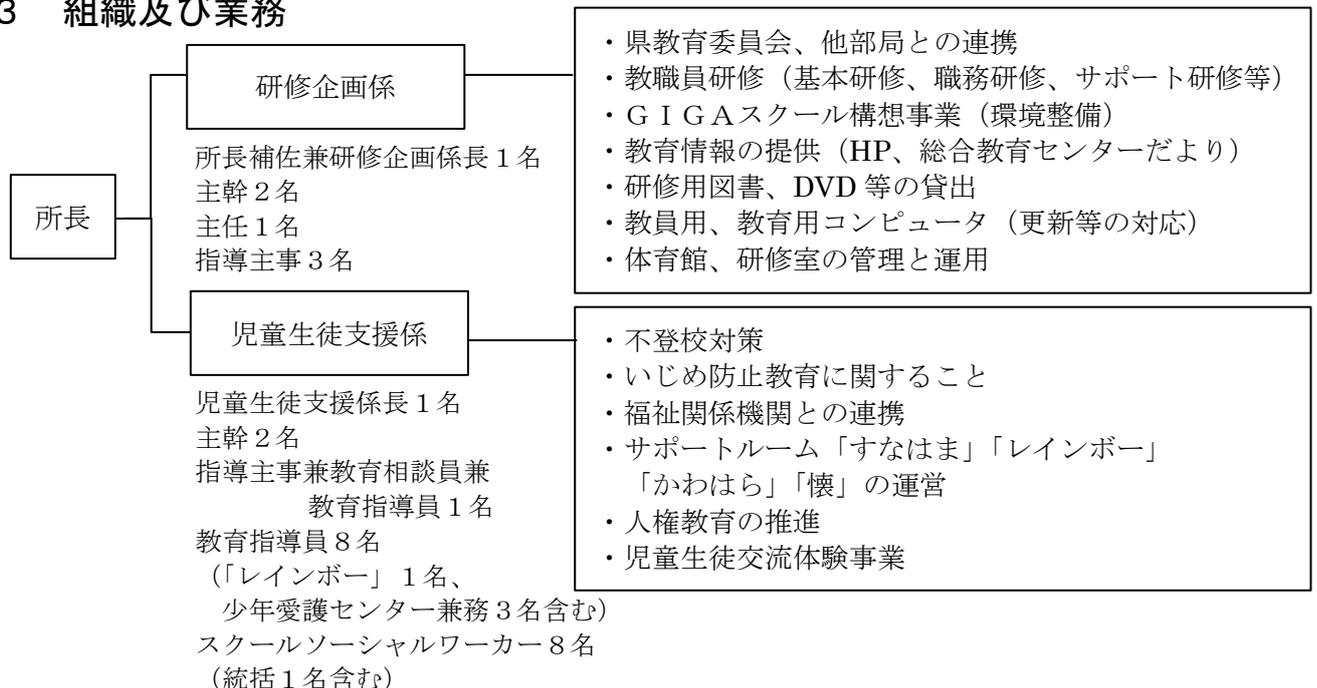
教育に関する専門的、技術的事項の調査研究、教職員の研修等を行うとともに、不登校等の児童生徒に対する指導及び支援を行い、教育水準の向上及び児童生徒の健全な育成を図る。

(「鳥取市総合教育センターの設置及び管理に関する条例」から)

2 沿革

平成19年	4月	1日	鳥取市教育センターの設置及び管理に関する条例施行 鳥取市寺町150番地に鳥取市教育センター設置 「研修企画係」と「教育支援係」の2係体制 適応指導教室「すなはま」設置
平成19年	4月	26日	鳥取市教育センター開所式
平成20年	4月	1日	適応指導教室「けたかレインボー」気高町総合支所3階に移設
平成28年	4月	1日	「特別支援教育係」を新設、「研修企画係」との2係体制
平成28年	11月	11日	適応指導教室「けたかレインボー」鹿野町総合支所2階に移設 「レインボー」に名称変更
平成30年	5月	1日	鳥取市教育センター内に「こども発達支援センター」開設
令和2年	4月	1日	適応指導教室「すなはま」「レインボー」を サポートルーム「すなはま」「レインボー」に名称変更
令和2年	4月	27日	「こども発達支援センター」市役所駅南庁舎1階に移設
令和3年	4月	1日	鳥取市総合教育センターに組織改編 学校教育課から「児童生徒支援係」が加わり、「研修企画係」との2係体制 サポートルーム「かわはら」開設
令和4年	4月	1日	サポートルーム「懐(ふところ)」開設

3 組織及び業務



Ⅱ 令和4年度の事業概要

【研修企画係】

1 教職員研修のねらい・実績

(1) ねらい

「子どもたちが志をもち、社会へはばたいていくために ともに学び続ける教師をめざして」を基本方針に掲げ、一人一人の教育的ニーズに対応した教育を基盤にして、「魅力」と「徹底」による学力の向上、豊かななかかわりによる自己有用感の育成を見据えた研修を実施する。

(2) 実績（研修体系順）

期日	研修名 (コラボ開催を含む)	内容（講義題等）	講師	人数 (人)
4/26	初任者研修① 新規採用養護教諭研修①	鳥取市教職員としての責務と使命の理解 児童生徒との親和的関係を築き、温かい集団づくりをするために	鳥取市教育委員会事務局	44名
5/18 ～7/15	初任者研修②（1回目）	初任者学校訪問 授業参観・初任者との面談・管理職との協議	鳥取市教育委員会事務局	44名
9/12 ～1/23	初任者研修②（2回目）	初任者学校訪問 授業参観・初任者との面談・管理職との協議	鳥取市教育委員会事務局 鳥取県教育センター	44名
7/25	初任者研修③ 新規採用養護教諭研修②	教師としての在り方、心構え 事例研究、情報共有、教育実践への意欲づけ	鳥取市教育委員会事務局	42名
12/15	初任者研修④	授業改善の理解と意欲づけ	鳥取市教育委員会事務局	41名
5/16	中堅教諭等資質向上研修① 6年目研修①	教育現場におけるコーチングの意義と代表的スキル	ナティフコミュニケーション教育研究所 所長 佐藤 敬子	66名
6/9	中堅教諭等資質向上研修② 16年目研修①	I C Tの日常的活用による授業力の向上	鳥取県教育センター GIGA スクール推進課	遠隔 39名
7/22	中堅教諭等資質向上研修③ 6年目研修②	自治的な集団づくりと自己有用感	愛媛大学 教授 城戸 茂	遠隔 66名
8/22	中堅教諭等資質向上研修④	教育者として必要な人間力の向上	鳥取市教育委員 山脇 彰子	22名
10/20	中堅教諭等資質向上研修⑤ 16年目研修②	各教科等の中で進めるキャリア教育	筑波大学 教授 藤田 晃之	遠隔 42名
12/1	中堅教諭等資質向上研修⑥ 6年目研修③	めざす子ども像実現に向けたカリキュラム・マネジメント	大阪教育大学 教授 田村 知子	66名
5/27	校長研修①	災害から考えるリスク・マネジメント	鳴門教育大学 特命教授 阪根 健二	51名
7/8	校長研修②	企業経営に学ぶ学校組織マネジメント	株式会社メモワールイナバ 代表取締役会長 光浪 房夫	遠隔 53名
7/14	副校長・教頭研修①	『想定外を想定』するために	多賀城市教育委員会 教育長 麻生川 敦	62名
9/1	副校長・教頭研修②	働きがいがあり、かつ、働きやすい学校に ～副校長・教頭だからできることを考える、実践する～	教育研究者・合同会社 ライフ&ワーク代表 妹尾 昌俊	遠隔 64名
5/13	授業づくり研修①	「学習する集団」を育む授業づくり①	岡山大学 教授 高旗 浩志	遠隔 61名
11/24	授業づくり研修②	「学習する集団」を育む授業づくり②	岡山大学 教授 高旗 浩志	遠隔 53名

期日	研修名 (コラボ開催を含む)	内容 (講義題等)	講師	人数 (人)
6/28	教務主任研修	学校・家庭・地域をつなぐミドルリーダーのリーダーシップ実践	愛媛大学 教授 露口 健司	遠隔 53名
10/14	道徳教育推進教師研修 (全)	教師としての人間的修養と道徳教育	就実短期大学 教授 小谷 彰吾	遠隔 56名
5/17	情報化推進リーダー研修	情報化推進リーダーの役割と情報活用プロセスの習得	東京学芸大学 教授 高橋 純	遠隔 56名
6/23	学校司書・司書教諭研修 (全)	学校司書・司書教諭の役割と情報センターとしての学校図書館の充実にむけて	鳥取県立図書館 支援協力課	遠隔 104名
7/25	講師研修①	教師としての在り方、心構え・児童生徒理解、教育実践への意欲づけ	鳥取市教育委員会事務局	遠隔 37名
12/2 12/5 12/19	講師研修② (養護) 講師研修② (中) 講師研修② (小)	先輩教諭の授業づくりや学級経営・保健室経営に学ぶ	先輩教諭 先輩養護教諭	36名
6/30	特別支援教育主任研修① (全)	通常の学級及び特別支援学級における学級経営・授業づくりの視点と連携	文部科学省 特別支援教育調査官 加藤 典子	遠隔 56名
6/10	特別支援学級担任研修① (全)	児童生徒の学習上・生活上の困り感に目を向けた指導・支援の充実	宮城学院女子大学 教授 梅田 真理	遠隔 56名
7/28	特別支援教育主任研修② (全) 特別支援学級担任研修② (全)	多様な教育的ニーズへの対応 ～教育的ニーズに気づき、支え、つなぐために～	特別支援教育総合研究所 インクルーシブ教育システム推進センター長 久保山 茂樹	遠隔 112名
7/5	特別支援教育支援員研修	子ども達のよりよい支援に向けたセルフマネジメントについて	鳥取大学 教授 竹田 伸也	遠隔 61名
6/16	人権教育主任研修①	県・市の人権教育の方針・施策の理解と各校における推進	鳥取県教育委員会事務局 人権教育課 鳥取市教育委員会事務局	遠隔 56名
5/31	教育相談コーディネーター研修①	教育相談コーディネーターとしての役割 スクリーニングシステムの活用について	鳥取県福祉相談センター 鳥取市教育委員会事務局	遠隔 54名
4/20	児童生徒相談員研修①	児童生徒相談員の職務と求められる役割	鳥取市教育委員会事務局	遠隔 14名
10/28	人権教育主任研修② 教育相談コーディネーター研修② 児童生徒相談員研修②	困っている子どもの自立支援を意図した教育課程編成	宇部フロンティア大学 臨床教授 小栗 正幸	遠隔 122名
11/17	外国語教育小中連携研修	小中9年間で進める外国語教育	文部科学省 教科調査官 入之内 昌徳	遠隔 56名
6/17	外国語・外国語活動支援員研修	小学校外国語・外国語活動支援員の役割と担任と連携した授業づくり	元島根大学教授 大谷 みどり	遠隔 40名
11/29	I C Tを活用した授業づくり研修	I C Tを活用した協働的な授業づくり	放送大学 教授 中川 一史	遠隔 55名
9/20	I C T活用研修 (基礎編)	Google Meet の操作	鳥取市教育委員会事務局	オンデ マンド
10/5	I C T活用研修 (応用編)	Apple 社製アプリの活用	鳥取市教育委員会事務局	オンデ マンド
7/12	教職員人権教育研修	鳥取市の学校人権教育の推進について	鳥取市教育委員会事務局	遠隔 48名
10/3	学級づくり研修	子どもが自分のよさを発揮できる温かい学級づくり	元鳥取市教育委員会事務局次長 豊福 聡	遠隔 36名
8/19	特別支援教育研修 (基礎)	鳥取市教育支援委員会審査申請の提出に係る留意点 個別的教育支援計画 (改訂版) 作成の留意点について 令和4年度通級指導教室の仕組みについて	鳥取市教育委員会事務局	オンデ マンド
8/23	幼保小中連携研修	子どもの発達段階における遊び・学びの連続性と豊かな人間関係作り 接続部分に焦点を当てた幼保連携、幼保小連携、小小連携、小中連携の横と縦のつながりを生かした柔軟な接続	鳥取県教育委員会事務局 東部教育局 鳥取短期大学 准教授 上島 逸子	遠隔 126名

2 教師力サポート研修

(1) 教師力サポート研修

① ねらい

研修と学校をつなぐために、学校に課題に即したワークショップ型の出前研修を提供し、教職員の指導力向上及び学校の活性化を支援する。

② 実績

	期 日	派 遣 先	教 科 等	対 象 ・ 人 数
内 容				
1	5月20日(金)	明治小学校	生徒指導	職員 10名
	○スクリーニングについて			
2	6月 1日(水)	遷喬小学校	校内授業研究会 算数科	職員 12名
	○算数科授業の工夫			
3	6月 8日(水)	浜坂小学校	国語科	職員 20名
	○国語科授業の工夫			
4	6月15日(水)	佐治小学校	校内授業研究会 特別活動	職員 7名
	○特別活動の指導の工夫			
5	6月21日(火)	東郷小学校	校内授業研究会 特別活動	職員 7名
	○特別活動の指導の工夫			
6	6月22日(水)	瑞穂小学校	特別支援教育	職員 7名
	○特別支援教育について			
7	6月29日(水)	用瀬小学校	校内授業研究会 特別活動	職員 13名
	○特別活動の指導の工夫			
8	7月 4日(月)	中ノ郷小学校	アセス活用	職員 25名
	○子どもたちのよりよい人間関係づくりに向けたアセス活用			
9	7月29日(金)	東部小学校教育研究会 養護教諭部会	ICT活用研修	部員 60名
	○Google Workspace の活用法			
10	8月 5日(金)	面影小学校	校内授業研究会 特別活動	職員 25名
	○学級活動(学級会の話し合い活動)の授業づくり			
11	8月18日(木)	高草中学校	高草中校区研修会 特別活動	職員 65名
	○特別活動の指導の工夫			
12	8月18日(木)	桜ヶ丘中学校	アセス活用	職員 35名
	○子どもたちのよりよい人間関係づくりに向けたアセス活用			
13	8月19日(金)	河原中学校	ICT活用研修	職員 20名
	○Google Workspace の活用法			
14	8月19日(金)	湖東中学校	湖東中校区研修会 生徒指導	職員140名
	○これからの児童生徒支援のあり方			
15	9月 7日(水)	明治小学校	特別支援教育	職員 10名
	○特別支援教育について			
16	9月12日(月)	浜村小学校	生徒指導	職員 20名
	○安定した学級経営のための生徒指導の要点について			
17	9月14日(水)	面影小学校	校内授業研究会 特別活動	職員 25名
	○学級活動(1)の授業づくりについて			
18	9月14日(水)	岩倉小学校	校内授業研究会 特別活動	職員 30名
	○学級活動(1)の授業づくりについて			

	期 日	派 遣 先	教 科 等	対 象 ・ 人 数
	内 容			
19	9月16日(金)	城北小学校	校内授業研究会 自立活動	職員 30名
	○自立活動における指導の工夫			
20	9月20日(火)	浜坂小学校	校内授業研究会 算数科	職員 40名
	○算数科授業の工夫			
21	9月21日(水)	用瀬小学校	校内授業研究会 特別活動	職員 13名
	○特別活動の指導の工夫			
22	9月27日(火)	世紀小学校	校内授業研究会 特別活動	職員 20名
	○特別活動の指導の工夫			
23	9月28日(水)	大正小学校	校内授業研究会 特別活動	職員 15名
	○学級活動(1)の授業づくりについて			
24	10月19日(水)	東部小学校教育研究会 生徒指導部会	部会研究会 生徒指導	部員 40名
	○児童への支援のあり方と生徒指導提要の改訂について			
25	10月28日(金)	宮ノ下小学校	校内授業研究会 算数科	職員 20名
	○算数科授業の工夫			
26	11月16日(水)	千代南中学校	校内授業研究会 特別活動	職員 15名
	○特別活動の指導の工夫			
27	11月25日(金)	面影小学校	校内授業研究会 特別活動	職員 25名
	○学級活動(1)の授業づくりについて			
28	11月29日(火)	中学校教育振興会 生徒指導部会	部会研究会 生徒指導	部員 15名
	○いじめの認知及び対応のあり方について			
29	11月30日(水)	千代南中校区	特別活動	職員 25名
	○特別活動の指導の工夫			
30	12月 6日(火)	浜坂小学校	校内授業研究会 自立活動	職員 40名
	○自立活動における指導の工夫			
31	12月 7日(水)	大正小学校	校内授業研究会 特別活動	職員 15名
	○学級活動(1)の授業づくりについて			
32	12月 7日(水)	世紀小学校	校内授業研究会 特別活動	職員 20名
	○特別活動の指導の工夫			
33	12月15日(木)	岩倉小学校	校内授業研究会 特別活動	職員 30名
	○特別活動の指導の工夫			

(2) 成果と課題 (○：成果 ▲：課題 ◇：展望)

○本年度は特別活動に関する研修依頼が増加した。これは鳥取市がめざす、自発的・自治的な活動をとおして自治力のある集団、自立した児童生徒の育成に係る学校の取組に対する一助となったと考える。あわせて、特別支援に関する支援依頼も増えており、より個に応じた指導について理解を深めるきっかけを提供できたと考える。

▲昨年度に比べ、サポート研修の開催回数は増加したが、学校数は減っている。県実施の訪問型研修を活用している学校もあるが、研修と学校をつなぐ視点から今後も利用促進に向け、広報に努めていく。

◇学力向上、生徒指導、特別活動、ICT活用等、依頼内容は多岐にわたるため、内容から派遣する講師を選定し、対象者の課題に対してマッチした研修を行い、効果をあげる。

3 中堅教諭等資質向上研修 企画選択研修の事例

(1) ねらい

- ①保育体験 : 保育園・幼稚園・認定こども園における体験活動を通して、園児・児童生徒の実態や指導者の関わり方を把握し、その成果を教育活動に反映させる。
- ②地域貢献体験 : 地域での行事等の体験活動を通して、地域との連携や人とのかかわりの重要性を理解し、自校の教育活動に反映させる。
- ③指導助言体験 : 授業研究会で指導助言を担当することで、学習指導の専門的知識・技能の向上を図る。

(2) 実績

対象者：22名（18校）

※小学校15名（13校）、中学校7名（5校）

①キャリア体験

体験先(学校・園)		人数	内 容	時 期
保育園	いなば保育所 城北保育所 古海保育所 しらゆり保育所 浜坂保育所 浜村保育所 大覚寺ひまわり 保育所	9名	<ul style="list-style-type: none"> ○園児との交流 <ul style="list-style-type: none"> ・朝の登園指導 ・創作活動 ・自由遊び ・給食指導 ○園長、保育士との協議、情報交換 	7月～12月
幼稚園	第5幼稚園	2名		
中止		11名	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、体験先との協議の上、中止となった。	
<p><中堅教諭の声></p> <ul style="list-style-type: none"> ○年長クラスで折り紙づくりやレゴブロックでの創作活動、ドッジボールなどの運動遊びを通して園児と交流した。個人の学びと集団での学び（ルールを守る等）それぞれのねらいを大事にしながら指導している様子を見ることができ、自校での教育活動にも生かせると感じた。 ○異学年での保育活動を見学することを通して、様々な背景をもった幼児に対して個の支援を丁寧に行っていることが学びとなった。 ○園長先生と、園と小学校それぞれの現状を話し合う中で、架け橋期の大切さがよくわかった。 ○園の職員との協議の中で、幼保から中学校までの学びをどのようにつなげていくのか考えることができた。 ○保育士の声かけや関わり方によって、子どもが遊びを通して学ぶ姿が大きく変わる様子を見て、発達段階にあった支援について自身の取組を考え直すきっかけとなった。 <p>※今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、体験活動実施が大変難しかったが、短時間での実施など、ウィズコロナ下で工夫をして研修を実施する学校が増えた。また、本研修に対する園からの協力が多く得られ、園長との対話をを行った者が例年より多かった。</p>				

②地域貢献体験

体験・活動先 (公民館・場所等)		人数	内 容	時 期
公民館 活動	倉田地区公民館 面影地区公民館 末恒地区公民館 津ノ井地区公民館 浜坂地区公民館	11名	<ul style="list-style-type: none"> ・写真教室・陶芸教室等の準備運営 ・人権啓発活動への参加 ・地域の工作教室の準備運営 ・公民館主催のフェスティバルへの参画 	8月～11月

体験・活動先 (公民館・場所等)		人数	内 容	時 期
公民館 活動	岩倉地区公民館 浜村地区公民館		※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から地域の団体の活動や公民館活動の多くが中止となり、それに伴い打ち合わせ等も中止となったため、意見交換を行う時間がとれない者もいた。	8月～11月
地域団体	湖東グリーンゾーン	2名	・地域ボランティアとともに海岸清掃活動への参加	8月～10月
	貝殻節祭り	1名	・地域のイベントの準備運営の参画	
	夕涼みプロジェクト	1名	・学校と地域が協働で行うイベントの準備運営の参画	
中止		7名	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、体験先との協議の上、中止となった。	
<p><中堅教諭の声></p> <p>○地域の行事を通して地元の子どもたちを育てていきたいという地域の思いに触れ、自校の教育活動との連携の在り方について考えるきっかけとなった。</p> <p>○地域のイベントに参加したことで、地域のことを知ることができた。今後のふるさとキャリア教育のカリキュラム作成に生かしていきたい。</p> <p>○地域を知るだけでなく、学校での教育活動についてPRする機会となった。地域の方と触れ合う経験は、勤務校に対する愛着を強くした。</p> <p>※中堅教諭から、地域の団体や公民館活動、祭り等、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止や縮小となり、研修実施が困難であったという声を多く聞いた。しかし、参加イベントの変更や企画段階での参画などで地域とのかかわりをもつようにしたため、昨年度同様中止や延期となった受講者は少なかった。</p>				

③指導助言体験

指導助言対象	人数	内 容	時 期
初任者研修	10名	初任者研修での指導助言、授業づくりへの協力	10月～11月
校内授業研究会	12名	校内授業研究会での指導助言	6月～11月
<p><中堅教諭の声></p> <p>○初任者の研究授業において、指導案作成時からかかわることで、初任者に対してどのようなアドバイスをするかよいか考え、自身の授業について分析することにもつながった。</p> <p>○研修をきっかけに、職員室等で日常的にコミュニケーションをとりながら、授業だけでなく、学級経営や教師としての在り方についても考える機会が増えた。</p> <p>○自主的にミニ研修会を開くことで校内のOJTを推進し、初任者や講師などの若年層の教職員との連携強化につながった。</p> <p>※今年度もGIGAスクール構想推進の中核としての役割を担う中堅教諭が多く感じた。また、メンターとして初任者に対してミニ研修を行う者も多くみられた。</p>			

(3) 成果と課題 (○: 成果 ▲: 課題 ◇: 展望)

- 体験活動の中で職員と協議・情報交換を行うことで、幼児教育や社会教育に関する知見等を得ることで自身の視野が広がり、自校の教育活動に活かそうというきっかけとなった。
- ▲昨年度同様に新型コロナウイルス感染症対策のため、保育体験・地域貢献体験の実施が困難な学校が多かった。
- ◇ウィズコロナの中で、体験研修をどのように実施していくのか検討していく必要がある。体験先の職員との意見交換を、ICTを活用して実施することも視野に入れる。
- ◇幼児教育について事前に学ぶ機会を設け、より保育体験研修の効果を上げていく。

4 G I G Aスクール構想事業の環境整備

(1) ねらい

I C Tは社会のあらゆる場所・場面で日常的に活用されている。学校においても、これからの学習を支えるI C T環境を積極的に整備して、子どもたちの可能性を広げ、社会を生き抜く力を育む。また、校内ネットワーク環境（無線L A N・アクセスポイント）を整備し、児童生徒1人1台端末の更なる活用を図る。

<鳥取市G I G Aスクール構想の目的>

- 1人1台端末と校内ネットワークを一体的に整備することで、一人一人の教育的ニーズに対応した誰一人取り残すことのない学びで、資質・能力を一層確実に育成できる教育I C T環境を実現する。
- I C Tを効果的に活用した学びを推進し、1人1台端末を活用した授業改善をととして、子ども一人一人の主体的・対話的で深い学びを実現する。

(2) 実績

① G I G Aスクール運営支援センター

- 1人1台端末など学校のI C T運用を円滑に行うため、運用サポート、ヘルプデスクの設置等を実施

② 鳥取市G I G Aスクール推進委員会の開催

- 令和4年9月新たに「鳥取市G I G Aスクール推進委員会」を設置し、「鳥取市学校教育情報化推進計画」の策定に伴う今後のI C T活用の推進や環境整備等について、幅広く検討することで、鳥取市G I G Aスクール構想をより多角的かつ計画的に推進することができた。
令和4年度 3回実施

③ 市立小・中・義務教育学校特別教室へのアクセスポイント整備

- 理科室、図工室、家庭科室等の特別教室へのアクセスポイント整備を実施
- 湖東中学校校舎耐震工事、浜坂小学校及び江山学園校舎増築に伴う校内通信ネットワーク整備を実施。

④ 大型提示装置の整備

- 電子黒板整備：市立小・中・義務教育学校 40校 121台整備

⑤ モバイルルータ導入

- 体育館や校外学習に活用できるよう市立小・中・義務教育学校等にモバイルルータを計70台配備

⑥ Wi-Fiによるインターネット接続環境整備費助成金

○Wi-Fiによるインターネット接続環境のない家庭に対する支援として、Wi-Fiによるインターネット接続環境を整備した家庭に対し上限1万円を助成した。

対象：今年度小学1年生または今年度市外より転入してきた家庭など、令和3年度以前に本助成金制度の対象にならなかった家庭

令和4年度 申請実績 5件

⑦ クラウド型セキュリティサービスの活用によるセキュリティ強化

○学校ICT端末の高速通信ネットワーク（SINET）への接続を行っており、今後の端末利用の多様性を踏まえ、危険なプログラム等が含まれるWebサイトの閲覧を未然に防止するため、令和3年度よりクラウド型セキュリティサービスを導入しセキュリティ対策を講じた。

⑧ 授業目的公衆送信補償金

○授業の過程で他人の著作物を用いて作成した教材をICT機器を活用して送信するなどしたときに個別に許諾を得なくてもいいように費用補償を行った。

(3) 成果と課題 (○：成果 ▲：課題 ◇：展望)

○GIGAスクール運営支援センターを設置し、令和2年度整備した1人1台端末等学校へ整備しているICT機器のトラブルに丁寧に対応できるようにした。また、各学校において1人1台端末を積極的に活用できるよう支援を行った。

○令和4年度の電子黒板整備をもって、各学校1普通教室に1台の大型提示装置の整備を完了した。

○各学校の理科室、図工室、家庭科室等特別教室にてインターネット接続が可能になるようアクセスポイント整備を行ったことで特別教室での授業の際も端末を活用した授業が可能となった。

▲ICT端末のさらなる活用が図られるよう、引き続き、運用支援及び環境整備が必要である。

▲児童生徒用タブレット端末の更新に向け、国の動向を注視しつつ、方針の検討が必要である。

◇各学校のコンピュータ室に設置している教育用コンピュータ端末について、今後、更新は行わず、OSのサポート終了をもって廃棄を行う方針を決定した。

令和5年度に向けて

◇GIGAスクール運営支援センターを、タブレット端末を含むICT機器に関する各種相談の総合窓口として引き続き運営し、学校の負担軽減と支援を図る。

◇湖東中学校校舎の耐震化工事及び各学校教室増等に伴うネットワークの追加整備を行う。

◇Wi-Fi環境のない家庭への支援として環境整備に対する助成を行う。

5 若手育成

○魅力化事業

(1) ねらい

鳥取の魅力発見と仲間づくりを目的に、休日の自主研修会の企画・運営等を行うことで、県外出身新卒初任者の安定した生活基盤の確立を支援し、安心して日々の教育活動にあたるようにする。

<支援体制>

鳥取県退職校長会鳥取支部および気高支部との若手教員支援に関する覚書により、退職校長等が地域の応援団（若手教員サポーター）として、特に県外出身新卒初任者の生活上のアドバイスや、見守り、声かけ等を行う。

(2) 実績

期 日	場 所	内 容
4月26日（火）	総合教育センター	・県外出身新卒初任者と担当若手教員サポーターとの顔合わせ（鳥取市初任者研修①終了後）
6月4日（土）	鳥取砂丘	・鳥取砂丘散策、夕日観望
7月2日（土）	鳥取市内	・郷土の自然・歴史・文化探訪 鹿野そば道場、橋本牧場、白兔海岸、かろいち、かっこ館
9月11日（日）	さじアストロパーク	・郷土の自然体験 プラネタリウム視聴、天体観測会、星座解説
10月15日（土）	やなせ窯	・人間国宝前田昭博氏との交流 工房見学、作品鑑賞、茶話会

(3) 成果と課題（○：成果 ▲：課題 ◇：展望）

○年度初めに県外出身新卒初任者と若手サポーターとの顔合わせの会を実施することで、相談できる相手がいるという安心感や、同じ環境で赴任した者同士の連帯感を築くことができた。

○若手サポーターと連携しながら休日の自主研修会を実施した。市内の名所散策や郷土の自然や文化との触れ合いを通して、県外出身新卒初任者に鳥取の魅力を体感してもらうことができた。

○慣れない土地での生活に対するアドバイスや、日常的な言葉かけへの感謝の声が所属校の校長から聞かれる等、本事業に対する評価をいただいた。

▲自主研修会の参加者を増やすために、Google Classroomの活用方法や広報の仕方を工夫する必要がある。

◇今年度は、初任者同士の横のつながりづくりを目的に、全ての初任者研修も集合研修とした。特に初任者研修①では市内中心市街地散策を計画した（荒天のため中止）。県内出身、県外出身に関わらず、来年度も研修を通じた初心者同士の仲間づくりを行い横のつながりを深めていきたい。



○講師研修会

(1) ねらい

先輩教師の授業参観・講話を通して、児童生徒一人一人を伸ばす授業づくりや学級経営（保健教育と保健室経営）について学び、今後の実践に活かす。

(2) 実績

期日	対象	会場	方法	授業者	内容	人数
12 / 2	養護助教諭	湖東中学校	集合研修	湖東中学校 八木 茉有子 養護教諭	・実践発表・講話 「保健教育及び保健室経営について」 ・危機対応に関する演習	8 名
12 / 5	後期課程講師 中学校・義務教育学校	国府町コミュニティセンター	集合研修	南中学校 吉岡 由佳 教諭	・授業視聴 1年特別の教科 道徳 主題名：挑戦し続けること 教材名：「テストジャンパー」 ・講話 授業づくり、学級づくりについて	9 名
12 / 19	前期課程講師 小学校・義務教育学校	鳥取市人権交流プラザ	集合研修	醇風小学校 西面 賢治 教諭	・授業視聴 2年国語 单元名：「かたかなで書く言葉」 ・講話 自治力を育む学級経営 思考ツールと ICT を活用した授業	18 名

(3) 成果と課題 (○：成果 ▲：課題 ◇：展望)

○研修講師との連携を密にして研修の意図と研修講師が受講者に伝えたいことをすり合わせながら準備することで、受講者にとってより学びが深まる研修となった。

▲他の研修と比較して、時間を短く設定しているために、講義後の協議の時間が少し短い。15分程度早めに開始して協議の時間を増やすことも考えられる。

◇鳥取市のこれからの教育を担うキャリアスタート期の者への研修を、今後も創意工夫をしながら実施していきたい。

◇小・中とも休憩時間に講師同士が会話する姿がなく、横のつながりの弱さが垣間見られた。研修内容以外にも講師同士のつながりを築けるような機会を設けるなど、集合研修の良さを最大限に生かした研修となるよう考えたい。



【児童生徒支援係】

6 令和4年度 鳥取市の不登校対策

<目標>

多様性を受け止め、共に学び育つ集団づくり・組織づくり
～子どもたちの安全・安心を支える学校・家庭・地域をめざして～

<取組の柱>

不登校が生じないような学校づくり <未然防止>

○豊かなかかわりによる「自己有用感」の育成

【学校】

- ・特別活動を軸にした児童生徒の自発的・自治的な活動の推進
- ・個人間の多様性を受け止める学習指導と協働的な授業づくりの推進

【市教委】

- ・「笑顔あふれる自治力育成研究事業」
- ・鳥取市 Smile(いじめ防止)プロジェクト
- ・学力向上推進事業

【地域社会】

- ・地域での居場所づくり

○全児童生徒を対象にした実態把握

【学校】

- ・スクリーニングシートを活用したリスク把握と支援策の検討、事後の評価
- ・児童生徒アンケートによる学級集団及び個人の実態把握と課題に応じた指導・支援

【市教委】

- ・現代的課題や学校のニーズに応じた研修の充実
教育相談コーディネーター(CO教員)研修及び支援
→ヤングケアラー、スクリーニングシステム活用等
人権教育主任研修 → LGBTQ 等
- ・中学校区及び校内研修への支援
- ・スクリーニングシステムの活用における効果的な支援

【地域社会】

- ・地域からの情報収集

不登校やその傾向にある児童生徒への 効果的な支援

○個々の児童生徒の状況に応じた支援

【学校】

- ・スクリーニングシート・アセスメントシートを活用した組織的・計画的・有効的な支援

【市教委】

- ・スクールソーシャルワーカーの巡回訪問
- ・アドバイザーによる不登校支援事業
- ・関係諸機関との連携
- ・スクールカウンセラー配置事業(県教委)の活用

【地域社会】

- ・地域人材による見守り、家庭支援

○教育機会の確保

【学校】

- ・学級以外の学びの場(相談室、サポート教室等)の活用
- ・ICTを活用した個別学習支援

【市教委】

- ・サポートルーム(すなはま・レインボー・かわはら・懐)の運営及び拡充
- ・児童生徒相談員の配置
- ・自宅学習支援事業
- ・フリースクール通級児童生徒への支援
→鳥取市フリースクール利用料助成事業

【地域社会】

- ・フリースクール等との連携

7 令和4年度 鳥取市のいじめ防止対策

<目標>

いじめを許さない、集団の力で問題解決していける仲間づくり
～子どもたちの安全・安心を支える学校・家庭・地域をめざして～

<取組の柱>

いじめが生じないような学校づくり <未然防止>

○児童生徒の自発的・自治的な活動による 「絆づくり」の推進

【学校】

- ・特別活動を軸にした児童生徒の自発的・自治的な活動の推進
- ・道徳や学級活動を中心とした生命や人権を大切にする学習の充実

【市教委】

- ・鳥取市 Smile(いじめ防止)プロジェクト
→小・中学生 Smile サミットの開催
- ・「笑顔あふれる自治力育成研究事業」
- ・全国いじめ問題子供サミットへの参加

【地域社会】

- ・地域での居場所づくり

○全児童生徒を対象にした実態把握と教育相談

【学校】

- ・児童生徒アンケート等による実態把握
- ・スクリーニングシートを活用したリスク把握と支援策の検討、事後の評価

【市教委】

- ・現代的課題や学校のニーズに応じた研修の充実
人権教育主任研修 → LGBTQ等
教育相談コーディネーター(CO教員)研修
→ヤングケアラー等
- ・情報モラル教育推進事業
- ・中学校区及び校内研修への支援

【地域社会】

- ・地域・家庭からの情報提供

いじめ解消にむけた取組 <早期発見・早期対応>

○個々の児童生徒の状況に応じた指導・支援

【学校】

- ・児童生徒アンケート等をもとにした組織的・計画的
・有効的な支援
- ・いじめの積極的認知と指導・支援
- ・いじめ事案の情報共有と引き継ぎの徹底

【市教委】

- ・専門諸機関との連携
- ・スクールカウンセラー配置事業(県教委)の活用
- ・スクールソーシャルワーカーの巡回訪問

【地域社会】

- ・専門機関による支援
- ・地域人材による見守り

○組織対応の充実

【学校】

- ・学校いじめ防止基本方針の内容の修正及び周知
- ・校内いじめ防止対策委員会の開催による組織的
対応
- ・校内研修の充実

【市教委】

- ・小・中学校校長会、教頭会、特別活動部会、生徒
指導部会との連携と情報伝達
- ・学校への指導助言
- ・県教育委員会との連携

【地域社会】

- ・地域・家庭での研修
- ・学校運営協議会での情報共有及び意見交換

8 サポートルーム「すなはま」「レインボー」「かわはら」「懐」の運営

(1) 令和4年度入級・在級状況

① 在級児童生徒数

計13名（小3名、中10名）

(人)

	小学校・義務前期						中学校・義務後期			合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	
すなはま	0	0	0	0	2	1	1	6	2	12
レインボー	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
かわはら	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	2	1	1	7	2	13

※サポートルーム「懐」の利用は期間限定のため、体験生のみ

② 月別入級児童生徒数

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入級児童生徒数	0	0	1	4	2	0	2	0	2	2	0	0	13

③ 在級児童生徒の状況

(人)

(人)

		小学校 義務前期	中学校 義務後期
学校復帰	教室	0	0
	相談室	0	0
学校と併用	教室	1	3
	相談室	0	4
	放課後登校等	1	2
サポートルームのみ		1	1
その他		0	0
合計		3	10

		小学校 義務前期	中学校 義務後期
週に3～5回程度	午前中心	1	3
	午後中心	0	0
週に1～2回程度	1日	0	2
	午前中心	1	4
	午後中心	1	0
1日		0	1
学校復帰 他		0	0
合計		3	10

※サポートルーム「レインボー」は火・木・金曜日の午前中のみ、サポートルーム「かわはら」は利用者と相談の上、開室

④ 令和3年度在級児童生徒の状況

(人)

⑤ サポートルーム「懐」の状況

		小学校 義務前期	中学校 義務後期
高校進学			3
学校	教室	0	0
	相談室	0	0
学校と併用	教室	1	2
	相談室	1	2
	放課後登校等	0	0
サポートルームのみ		0	0
自宅		0	0
その他		1	0
合計		3	7

	学年	場所	期間	主な支援内容
1	小2	学校	4/14～5/6	安全確保
2	小2	学校（別室）	7/1～7/19	学習支援 ルールの確認
3	小1	b & g	10/4～11/22	学習支援
4	小2	学校（別室）	12/19～1/27	学習支援 校内支援体制 の再整備

昨年度入級生10名のうち、中学3年生は3名で、全員が高等学校に進学した。
残り7名のうち6名は学校との併用を行っている。昨年度に引き続きサポートルームを利用している児童生徒は5名である。

(2) 活動内容

🐻 サポートルーム「すなはま」 一週間の時間割 🐻

		月	火	水	木	金	
午 前	9:30~9:45	来室・読書・今日の学習予定を決める					
	9:45~10:00	朝の会・ラジオ体操					
	10:00~10:50 ①	自主学习	ふれあい活動		自主学习		
	10:50~11:00	休けい		休けい			
	10:00~10:50 ②	自主学习			自主学习	11:00~11:20 自主学习	
						11:25~11:35 そうじ	
					11:40~11:50 読み聞かせ		
11:50~12:00	すなくまタイム			すなくまタイム	ふりかえり		
午 後	12:00~13:00	昼食（お弁当）・休けい				12:00 帰宅	
	13:00~14:10	学び合い活動	ふれあい活動	学び合い活動	スポーツ (体育館)		
	14:10~14:30	自由活動・ふりかえり・帰宅					

* 金曜日の午後はチャレンジ登校(個別に設定)

* 毎月最終金曜日は閉室

① 学習

- ・学習する部屋の場所やパーテーションの配置を工夫し、通級生が集中して学習に取り組める環境づくりに努めた。
- ・必要に応じて予定をホワイトボードに書くなどし、見通しがもてるように支援した。学習の定着が十分に図られていない児童生徒に対しては、それぞれに合った教材の提案も行った。
- ・9月以降、週に2回程度、児童生徒の学習支援を行うために学習支援員(数学・英語)を活用した。
- ・学習内容は、個別に教育指導員と相談して学習計画を立てた。
- ・午前中は自分のめあてにそって学習計画を立て、学習を進めている。



② 学び合い活動

- ・生活経験を広げるとともに、人との関わり方や社会性を培うことをねらい、月・水曜日の午後に学び合い活動の時間を設定した。
- ・保育園やデイサービスの方との交流に向けて、学習したことを生かしながら協力して準備を行うなど、児童生徒が関わり合う場面を設定した。
- ・9月に4回、12月に1回、鳥取県立聾学校手話普及コーディネーターと手話普及支援員を招き、手話体験活動を行った。
- ・調理活動や制作活動、すなはま農園作業等、年間を通して計画的に目的意識をもって取り組むことができた。



③ スポーツ

- ・体力向上と心身のリフレッシュをねらい、木曜日の午後にスポーツの時間を設定した。
- ・体育館を走ったり、ボールを使って連続パスの記録を測ったりして体ほぐしをした後、バドミントン、卓球等を中心に運動を行った。
- ・スポーツを通して人と触れ合う楽しさを感じる事ができた。



④ すなくまタイム

- ・前期は教育指導員やセンターの職員の話を聞くことを通して、様々な人とふれあい、視野を広げたり自分を振り返ったりするきっかけづくりとした。後期は希望する児童生徒が自分の特技を披露したり、興味のあることを紹介したりして、自分のよさの発見や発表することへの自信につなげた。

⑤ ふれあい活動

- ・「勤労生産的活動」、「創造・文化的活動」、「自然体験活動」、「社会体験活動」の4つの領域で年間計画に基づいて実施した。
- ・地域の施設や人材を有効活用し、地域のよさを感じたり、人との関わり方や社会性を培ったりすることをねらい、原則毎週火曜日に1日または半日を単位として設定した。

【令和4年度 ふれあい活動一覧表】

期日	内容	場所	期日	内容	場所
5/17	調理実習①	総合教育センター	10/25	マルサンアイ豆乳工場とバードスタジアム、生協見学	鳥取市河原町 鳥取市蔵田
5/24	太閤ヶ平ハイキング	鳥取市栗谷町	11/8	交流活動（福部保育園） 砂の美術館見学	鳥取市福部町
5/31	真教寺公園見学	鳥取市戎町	11/15	鳥取大学科学実験とものづくり	鳥取市湖山町
6/7	ニュースポーツ	総合教育センター	11/21	鳥取県立博物館アート出前講座	総合教育センター
6/14	梨の袋かけ体験 ビジターセンター見学	鳥取市福部町	12/6	調理実習③	総合教育センター
6/21	調理実習②	総合教育センター	12/13	鳥取県埋蔵文化財センター 出前講座と室内レク	総合教育センター
7/5	山陰海岸ジオパーク「海と大地の自然館」	岩美町牧谷	12/21	裁判所と県立博物館見学	鳥取市東町
7/12	中国電力出前講座と傘踊り	総合教育センター	1/10	書初めとジュニア県展見学	総合教育センター 鳥取市東町
7/19	殿ダム見学と雨滝	鳥取市国府町	1/17	折り紙教室（共同制作）	総合教育センター
9/6	青谷和紙作り体験と上寺地遺跡見学（臨時休業のため中止）	鳥取市青谷町	1/24	調理実習④と缶バッジ作り	総合教育センター
9/13	梨狩り、野外炊事	鳥取市福部町 岩美町大坂	2/7	国際交流	総合教育センター
9/20	コクヨとすいそ学びうむ見学（臨時休業のため中止）	鳥取市湖山町 鳥取市五反田	2/15	検察庁とやまびこ館見学	鳥取市西町
10/4	ポニー牧場 モルック体験	鳥取市越路大谷	2/21	お茶体験と高砂屋見学	鳥取市元魚町 鳥取市大工町
10/18	交流活動 （なないろデイサービス）	鳥取市二階町	2/28	お楽しみランチと室内ゲーム（1年の振り返り）	総合教育センター
					計26回



折り紙教室



梨狩り体験



交流活動（なないろデイサービス）

(3) 保護者・在籍校・関係機関との連携

① 教育相談・情報共有

- ・保護者との個別懇談を入級時と年度末に行った。
- ・学校との教育相談を入級時に行った。
- ・学校関係者、保護者の要望や必要に応じて、上記以外にも随時教育相談を実施した。
- ・「すなはまだより」(学校用・保護者用)を配付し、翌月の活動について見通しがもてるようにした。
- ・「来室状況報告」(学校用・保護者用)を送付し、来所回数や活動の様子について連絡した。

② 支援会議

- ・在籍校との連絡を密にし、場合によっては専門機関と情報共有をしながら、児童生徒の支援について連携を図った。

③ 参観日 令和4年11月30日(水) 午前の部 10:00~12:00 午後の部 12:50~13:30

- ・自由参観とし、午前中は普段の個に応じた学習、午後は「学びの発表会」を公開した。「学びの発表会」では、これまで学習してきた手話や読み聞かせ、ハンドベル等を保護者向けに発表し、児童生徒が主体となり進行も行った。
- ・4月から11月までのサポートルームでの様子をまとめたスライドショーを児童生徒と保護者で鑑賞した。



④ 保護者研修会 令和4年11月30日(水) 13:30~14:30

『子どもの心の発達と子育て』

講師 岩美町立岩美南小学校 校長 中西毅暢 氏

- ・今回の保護者研修会はサポートルーム「すなはま」「レインボー」に入級または体験している児童生徒の保護者を対象に実施した。
- ・参加した保護者や教員からは、子どもたちの発達について大変分かりやすく話をしていただいた。子どもとの関わりに迷ったときは、今日の話を参考に、子どもの話をもっと聞いたり認めたりしていきたいとの感想があった。



⑤ 個人ファイルの作成・活用

1週間単位で目標を設定し、日々の活動を記録した。児童生徒の成長を確認するとともに、学校や家庭からの情報についても記録に残すようにして、支援に役立てた。記録をデータ化することによって教育指導員だけではなく、指導主事等関係する様々な職員が日々の様子を確認しやすくなり、個々の状況把握や声かけ、学校との情報共有等に活かすことができた。児童生徒の振り返りは、週末に所内関係者で回覧し、情報共有を図った。

(4) 成果と課題 (○: 成果 ▲: 課題 ◇: 展望)

- 児童生徒の実態や思いに寄り添いながら支援することで、安心して通級する児童生徒が多かった。
- 学校と情報共有しながら支援策を確認・修正等することで、学校とサポートルームがそれぞれ実態に即した効果的な支援につながった。また、体験、入級開始時と比較すると、段階的にサポートルームの利用回数や登校する機会を増やしている児童生徒がほとんどであった。
- 学校からの紹介だけではなく、総合教育センターへの直接の教育相談や関係諸機関等にすすめられて見学や体験、入級につながった例もあった。
- ▲児童生徒のニーズや実態が多様化しており、体験や入級生も増加していることから、一人ひとりに合った支援が行き届きにくくなっている部分もある。長期休業中は閉室しているため、その間に生活習慣が乱れる児童生徒がおり、学校や家庭と連携をより密にすることが必要がある。
- ▲本年度開設したサポートルーム「懐」は、「懐」での対象児童生徒への支援よりも学校に出向いて期間限定で支援をすることが多かった。学校からのニーズの把握に工夫が必要である。

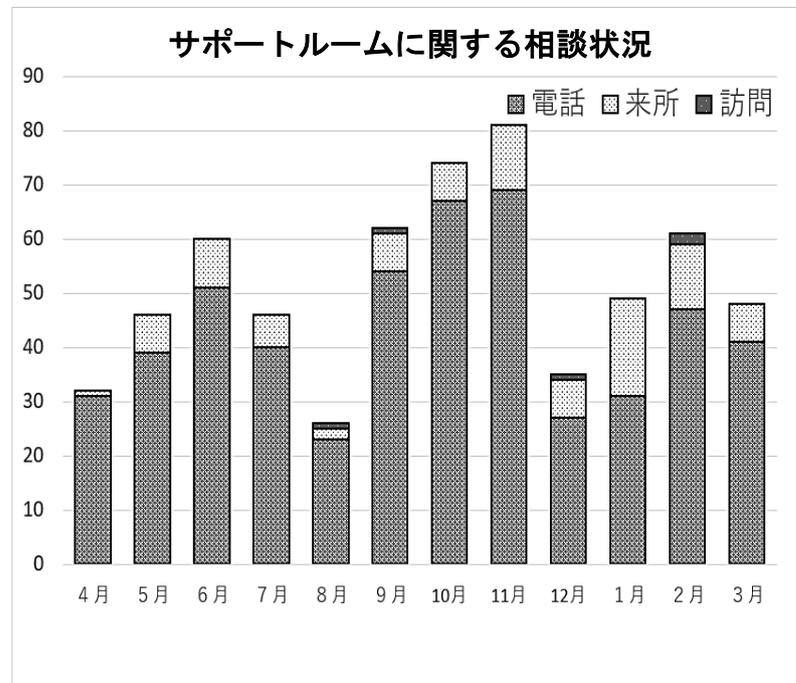
令和5年度に向けて

- ◇在籍校や保護者との連携をより密にし、一人一人のニーズや実態に即した支援や指導を行う。
- ◇進路や学習に対して不安をもつ児童生徒、保護者が多いことから、ICTや学習支援員の活用等学習支援の充実を図る。
- ◇多様な教育機会の確保の一つとして、サポートルームの更なる周知を図り、児童生徒の実態に即した利用を学校や保護者に働きかける。

9 サポートルーム「すなはま」「レインボー」「かわはら」「懐」の相談状況

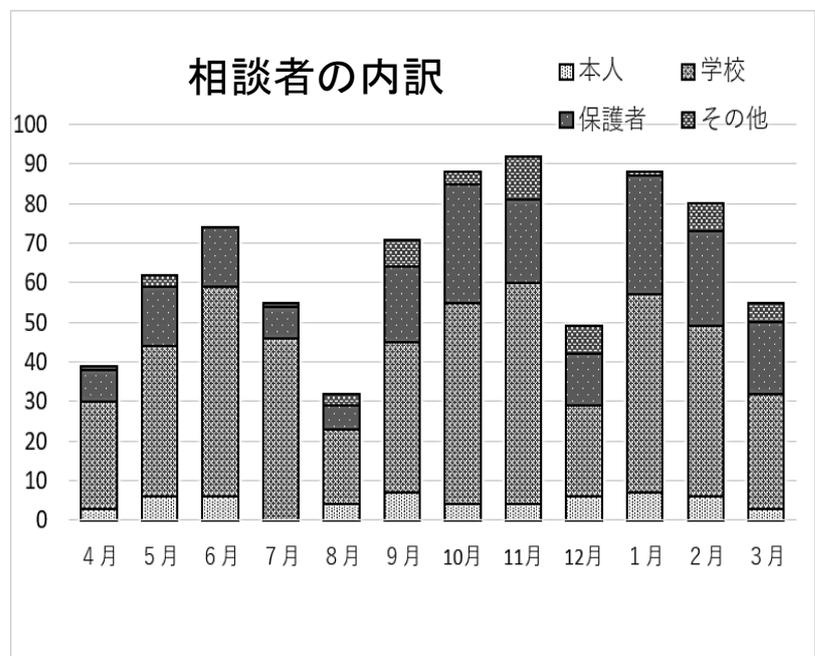
(1) サポートルームに関する相談状況（件数）

	電話	来所	訪問	全体
4月	31	1	0	32
5月	39	7	0	46
6月	51	9	0	60
7月	40	6	0	46
8月	23	2	1	26
9月	54	7	1	62
10月	67	7	0	74
11月	69	12	0	81
12月	27	7	1	35
1月	31	18	0	49
2月	47	12	2	61
3月	41	7	0	48
合計	520	95	5	620



(2) 相談者の内訳（回数）

	本人	学校	保護者	その他	合計
4月	3	27	8	1	39
5月	6	38	15	3	62
6月	6	53	15	0	74
7月	0	46	8	1	55
8月	4	19	6	3	32
9月	7	38	19	7	71
10月	4	51	30	3	88
11月	4	56	21	11	92
12月	6	23	13	7	49
1月	7	50	30	1	88
2月	6	43	24	7	80
3月	3	29	18	5	55
合計	56	473	207	49	785



- ・センターへの教育相談や関係諸機関からの紹介でサポートルームを知り、見学や体験、入級につながったケースがあった。
- ・サポートルームへのお見学、体験については、学校と該当児童生徒及び保護者とで協議した上で学校から相談を受ける形にした。学校とサポートルームとが情報共有することを大切にしたい。

(3) 見学・体験・入級児童生徒の状況

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
小1	義務前期	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	
小2		1	2	1	2	1	1	1	1	3	3	2	2	
小3		0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1
小4		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1
小5		1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	3	4	3
小6		0	1	3	4	3	2	2	2	2	2	2	1	2
中1	義務後期	0	1	1	2	2	2	1	2	2	2	4	5	
中2		0	4	6	7	7	7	10	8	8	8	8	8	
中3		1	2	3	1	1	1	2	4	3	3	2	2	
合計		3	11	15	17	16	14	19	21	20	22	23	24	

※見学・体験・入級児童生徒数は「すなはま」「レインボー」「かわはら」「懐」を含む。

(4) 見学・体験・入級児童生徒の延べ人数

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
小1	義務前期	0	0	0	0	0	0	15	11	0	0	0	0	26	
小2		6	4	1	8	0	4	3	3	9	7	3	13	61	
小3		0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	3	5	10
小4		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	6	9
小5		2	7	9	7	2	9	13	17	13	13	16	22	12	129
小6		0	5	8	10	4	7	3	5	4	4	7	2	3	58
中1	義務後期	0	5	8	6	0	4	4	7	7	7	18	39	105	
中2		0	19	41	42	10	56	74	69	52	48	64	48	523	
中3		4	13	29	7	3	11	14	19	14	15	20	6	155	
合計		12	53	96	80	20	91	126	132	99	101	134	132	1076	

開室予定(日)	9	17	21	14	4	17	19	18	16	17	18	16	186
1日平均(人)	1.33	3.12	4.57	5.71	5.00	5.35	6.63	7.33	6.19	5.94	7.44	8.25	5.78

※見学・体験・入級児童生徒数は「すなはま」「レインボー」「かわはら」「懐」を含む。

(5) 成果と課題 (○: 成果 ▲: 課題)

○サポートルームと学校の併用の仕方はそれぞれであったが、今年度の入級児童生徒については13人中10名が教室や相談室にも通うことができた。個々の目標設定や支援のあり方については、学校、本人・保護者とサポートルームとで適宜相談し、通級の頻度や時間、学校へ行く回数を増やしてきている児童生徒もいた。

▲サポートルームの利用にあたっては、一定期間は児童生徒の目標や支援の検討等のための体験期間として位置づけ、その後入級の意思を確認している。今年度は、1月以降も新たな見学や体験を希望する児童生徒が多かったため、体験生を含むと3月末現在で20名あまりの児童生徒が継続的に利用をしているが、入級には至らなかった児童生徒も多かった。

10 児童生徒交流体験事業

(1) 事業概要

<姫路市・鳥取市中学生合宿交歓会>

① 目的

姉妹都市である姫路市と鳥取市の中学生がオンラインでの交流を行うことにより、お互いの市についての理解を深めるとともに、親睦を図りながら交流の輪を広げることで、姉妹都市の絆を深めることを目的とする。

② 実績

○日時

令和4年8月4日（木）
午後1時から3時30分

○会場

鳥取市立気高中学校 ランチルーム 他

○参加者

- ・生徒 34名（姫路市17名 鳥取市17名）
※鳥取市の参加者は、各中・義務教育学校後期課程から1名
- ・指導者 13名（姫路市8名 鳥取市5名） ◎参加者合計 47名

○交流方法・内容

- ・Google Meet を活用したオンラインでの交流
- ・両市の概要、産業・食、方言等について紹介、生徒会活動内容の情報交換 等



<中山間地域ふるさと体験活動支援事業>

① 目的

鳥取市内の中山間地域（農山村）で生活体験活動を実施することにより、豊かな人間性や社会性を育むとともに、ふるさとの自然や文化の素晴らしさや人の温かさにふれることにより、児童にふるさとのよさを実感させる。

② 活動の種類

- 佐治町での農村暮らし体験を主とした宿泊体験学習及び文化や伝統についての体験活動
- 鳥取市中山間地域に該当し、上記に類する活動

③ 実績

- 市立小・義務教育学校前期課程11校が実施
- 主な体験活動
魚のつかみ取り体験、佐治谷話体験、プラネタリウム体験、林業体験、農家民泊体験 等



<郡山市・鳥取市小学生交流事業>

① 目的

- 姉妹都市である郡山市と鳥取市の小学生が交流を行うことで、両市の小学生相互の親睦を図る。
- 交流をとおして、他の都市や学校を知り、自分たちの郷土や学校を見直すことで、ふるさとに誇りをもつ。
- 東日本大震災被災地である郡山市に暮らす小学生と交流することで、郡山市応援プロジェクトでつないだ絆の太さを実感するとともに、ふるさと日本の復興に向けての思いや願いを一層育む。

② 実績

○津ノ井小学校

交流校：郡山市立守山小学校

日時：令和4年11月22日（火） 午前10時45分から12時00分

内容：・津ノ井小学校についてスライドを見せながら発表
・総合的な学習で調べた地域の歴史等についての発表

○浜坂小学校

交流校：郡山市立安積第一小学校

日時：令和4年11月25日（金） 午前10時45分から11時45分

内容：・鳥取市と浜坂小学校の紹介をスライドにまとめて発表
（鳥取市の観光地、名産、浜坂小学校の紹介 等）
・鳥取市の観光、名産、浜坂小学校に関するクイズを出題

○倉田小学校

交流校：郡山市立高倉小学校

日時：令和4年12月15日（木） 午前10時30分から12時00分

内容：・鳥取市と倉田小学校の紹介
・学校紹介の感想交流や励ましメッセージの交換

<地域で学ぶ職場体験活動（「ワクワクとっとり」）事業>

① 目的

中学校区及び義務教育学校区を基盤とした地域社会の中で生徒の主体性を尊重した様々な社会体験活動を実施することによって、地域社会の自立した構成員として共に生きる心や感謝の心を育む。あわせて、望ましい勤労観や職業観を身に付け、自己の将来に夢や希望を抱き、その実現を目指そうとする意欲や態度を育成する。また、鳥取市教育ビジョンめざす子ども像「ふるさとを思い 志をもつ子」の育成に向けて、保護者や地域の人々に「地域が一体となって生徒を育む」という意識の高揚を図ることで、学校・家庭・地域の協力体制を強め、すべての大人が子どもの育ちと学びを支える教育システムの創造と充実につなげていく。

② 実績

○対象者

鳥取市立中学校及び義務教育学校後期課程17校の特定学年の生徒全員

○実施内容

職場体験活動： 7校

代替活動： 10校

（2）成果と課題（○：成果 ▲：課題）

○姉妹都市交流を体験した児童生徒は、相互の親睦を図り、満足感や達成感を味わうことができたこと、体験が自身の成長につながったこと、ふるさと鳥取のよさを再確認できたことなどの感想を書いていた。また、ふるさと体験事業や職場体験に参加した児童生徒からは、新しいことや苦手だと思ふことに対して挑戦する気持ちが高まったことや人とふれあうことのよさを実感したという内容もあり、交流体験活動は、ふるさとへの理解や愛着、人との絆を深めるよい機会となっていると考える。

○コロナ禍で対面での交流が難しい状況の中、オンラインの活用により事業が実施できたことは、両市の交流という面でもよい機会となった。

○職場体験学習については昨年度に引き続き、代替活動の実施も可能とすることで、事業を実施することができた。どの事業所も中学生の活動に対して協力的で、生徒の活動に対して肯定的な評価をしていただいた。また、事後アンケートによると体験先や家庭での会話の中で励ましや労いの言葉かけがあり、生徒の自己肯定感を高めるきっかけとなっていると感じる。

▲コロナ禍という状況を鑑み、交流体験事業の形態や内容を工夫していく必要がある。

令和4年度 所報第16号

令和5年3月発行

発行所 鳥取市総合教育センター
〒680-0053 鳥取市寺町150番地

TEL (0857) 36-6060

FAX (0857) 26-3878

E-mail kyo-center@city.tottori.lg.jp

URL <https://www.city.tottori.lg.jp/www/contents/1190788717391/index.html>

